



TRICK STAR



FIM Asia Road Racing Championship 2016

ROUND3 Suzuka International Circuit , Japan

参戦報告書

■エントリー名	: TRICK STAR Racing
■監督	: 鶴田 竜二
■ライダー/ゼッケン	: 山本剛大(#1) 田中 歩(#82) 安田毅史(#28)
■開催日/サーキット	: 2016年6月2日(木)~6月5日(日) Suzuka International Circuit (Mie Japan)
■マシン	: カワサキNinja250
■結果	: 山本剛大 レース1 2位 レース2 2位 田中 歩 レース1 5位 レース2 3位 安田毅史 レース1 3位 レース2 23位

2016アジアロードレースチャンピオンシップ (ARRC) 第3戦は、TRICK STAR Racingのホームグラウンド 三重県鈴鹿サーキットで開催された。前回第2戦タイランドの決勝レース2で山本剛大が優勝し、マシンの進化が確認できていた。しかし更なるポテンシャルアップの為に日夜 試行錯誤を重ねてサーキット入りする。チームもポテンシャルアップしたマシンでの鈴鹿サーキット事前テストが行えず、どこまでラップタイムが伸びるのか、楽しみにしていた。また、今回はワイルドカード参戦で、経験も実力も申し分の無い安田毅史選手を起用し、3台でのエントリーとなる。



【6月4日(土) 公式予選 】

Qualify 9:50~10:20 天候:晴れ コース:ドライ

前日の公式練習は3回行われ、山本剛大は3回ともトップタイムを記録し、田中歩も2番手のタイムを記録する。安田毅史は初めてのTRICK STAR Racing Ninja250を確かめるようにタイムを刻んでいった。そして公式予選が開始される。いつもライバルチームからマークされ、スリップストリームを利用しようとするのを避け、自分達の走りに集中できるようTRICK STAR Racingの3台は予選開始約1分半後にピットアウトしコースインする。そして計測1周目に山本剛大は2分29秒338とコースレコードを大幅に更新するタイムを記録しモニターのトップに表示される。田中歩は計測4周目に2分30秒741の好タイム。一度ピットに戻り再スタートし計測3周目に30秒331と更にタイムを縮め2番手に表示される。安田毅史は計測4周目に2分31秒200の自己ベストタイムを記録する。その後ピットインし、決勝を見越したマシンセッティングの確認に残り時間を費やした。

結果、#1山本剛大 ポールポジション、#82田中歩 セカンドポジション、#28安田毅史5番手グリッドを獲得する。

【6月4日(土) 決勝レース1】

Race1 14:15～ 8LAP

天候:晴れ コース:ドライ

スタート後2コーナー立ち上がりで、田中選手が2番手、安田選手が4番手、山本選手は6番手。3コーナー進入で田中選手がトップに立つ。裏ストレートでは安田選手がトップスピードの伸びを活かしトップで130Rコーナーに進入。1周目終了時点で、トップはアピワット選手・2番手田中選手・3番手安田選手・4番手山本選手のオーダー。2周目1コーナー進入で田中選手がトップ・安田選手もアピワット選手をかわし2番手に上がる。裏ストレートでは山本選手が一気にトップに立ち、安田選手が2位。3周目ダンロップコーナーでは、山本選手がトップ・2番手田中選手・3番手アピワット選手・4番手安田選手。この辺りから5番手の選手との差が開き始め4台のトップグループが形成されていく。5周目終了時点で、山本選手がトップ・2番手アピワット選手・3番手田中選手、少し間を開けて4番手に安田選手。5番手以降は、トップ4台のペースについていけない。6周目のダンロップコーナーでトップ2台が争っている際に、安田選手も差をつめてくる。1人で後続を引き離すのは厳しく、毎周激しいポジション争いを展開する。8周目最終ラップをトップ山本選手・2番手に安田選手・3番手にアピワット選手・4番手に田中選手のオーダーで迎える。裏ストレート、トップに山本選手・2番手アピワット選手・少し離れて3番手安田選手・4番手田中選手で130Rコーナーに進入する。最終シケインコーナーでアピワット選手が山本選手のインを刺し、最終コーナーを立ち上がっていく。山本選手は懸命にゴールラインまでに抜き返そうとマシンを走らせるがわずかに届かず2位でチェッカーを受ける。一方田中選手は130Rコーナー立ち上がりで安田選手を抜いていたが、シケインコーナー進入で安田選手が田中選手のインに飛び込む。接触があり、田中選手が転倒してしまい安田選手が3位でゴール。田中選手は幸いエンジンが掛かっており、直ぐに再スタートし5位でチェッカーを受ける。



【6月5日(日) 決勝レース2】

Race2 14:15～ 8LAP

天候:曇りのち晴れ コース:ドライ

スタート後、山本選手は1コーナー進入をホールショット。田中選手は3番手・安田選手は5番手。MCシケイン進入で安田選手がラインを外してしまい7番手に後退。1周目終了時点で、山本選手は2番手・田中選手は3番手・安田選手は10番手でコントロールラインを通過する。2周目に入るころ、早くもトップ3台と4番手に差が開き始めた。MCシケイン進入時点で安田選手は5番手までポジションを挽回する。安田選手は3周目のMCシケイン立ち上がりからスプーンコーナー進入までに前車を抜き4番手に上がる。トップ3台はポジションを変えず30秒台でレースを展開し、4番手以降は31秒台での争い。4周目スプーンコーナーで安田選手は8番手まで後退していたが、その後に続く裏ストレートで一気に4台を抜き4番手に挽回する。6周目、ストレートで田中選手がアピワット選手を抜き2番手に上がるが、2コーナーで抜き返されてしまう。7周目1コーナー進入時点でトップは山本選手・2番手はアピワット選手、少し離れて3番手に田中選手がついている。4番手争いは安田選手がポジションをキープし後続を抑えている。ラストラップの3コーナー進入時点で、田中選手はトップ2台に追いついていた。最終シケインコーナー進入で、山本選手のマシンが一瞬リアタイヤが外側に逃げる。その隙をアピワット選手がインに飛び込んでくる。コントロールラインを山本選手は2位・田中選手は3位、そして安田選手はシケインコーナーで接触転倒があり再スタート後23位でチェッカーを受ける。





TRICK STAR

【ライダー 山本剛大 選手 コメント】

予選 1位 ポールポジション

チームの作戦で安田選手、田中選手、MOTO RACING & KYOEI with TRICK STARからエントリーしている中沢選手とパックになって走行することになり、安田選手、中沢選手、田中選手、自分の順でスタートしました。前との間隔的にベストなアタックを決めれるのは1周目だと思い、計測1周目に集中してアタックをかけミスがあったものの2分29秒3を記録してポールポジションを獲得しました。その後、田中選手、安田選手を引っ張りながらも30秒3を出せていたので、レースでもハイペースはキープできると確信できました。

Race1 2位

スタートは失敗してしまいましたが、単独でもタイムが1番速いのは判っていたので焦ることなくゆっくりとポジションを上げていきました。トップにたち、30秒台までペースを上げていきトップグループのメンバーを確認したところ、田中選手・安田選手・アピワット選手の4台での争いが確認出来ました。

ペースをどんどん上げていき後続の余裕を無くしていきたかったのですが、1コーナーでスリップから前に出られてしまいS字コーナーセクションを塞がれペースを上げられずにいました。

最終ラップはトップで入りましたが、1コーナーでスリップから安田選手に交わされてしまいペースが落ちたことによりアピワット選手に仕掛ける隙を与えてしまい、4位から2位までポジションアップされて真後ろに着かれてしまいました。そのタイミングでペースを上げたことにより3位以降が離れてしまい、最後はアピワット選手との1対1の攻防になりました。

後続にはTRICK STAR Racingのチームメイトがいることを予想していたので限界ギリギリのブレーキングでレコードラインを通過すれば防げると思い決めていましたが、後ろにいたのがアピワット選手であったため、インを刺されてしまい2位でチェッカーを受けました。

Race2 2位

前日のレースの反省から鈴鹿では後続との差をつくらないと勝てないと思い、スタートから集中してスタートを決めて1周目から高めのペースでトップをキープしました。

3周目にトップグループの台数を確認して安田選手が確認できたので、更にペースを上げていきました。前日よりハイペースなこともあり、後続は下手に仕掛けてきませんでした。

最終ラップまでトップでハイペースをキープし最終ラップは更にペースを上げていきましたが、鈴鹿サーキットの特性上ストレートだけでなく、コーナーでもスリップストリームが効く為、アピワット選手を引き離す事が出来なかった。そのまま前日と同じ展開になり、せめてでもシケインコーナーで限界ギリギリのブレーキングをしてブロックラインを走行することでミスを誘う作戦でしたが、ブレーキの限界を超えてしまい進入でブロックラインから外れてしまいました。なんとか減速してインにつける頃にはインに入られてしまい、2位でチェッカーを受けました。

今回のレースウィークは、今までで1番乗れていてマシンの仕上がりも今までで1番でした。

その証拠に公式練習・予選では全て圧倒的なタイムを記録して1位でした。ですがレースになればスリップストリームで1秒近くあったタイム差も意味がなくなり、ついて来られる展開になってしまっていました。どうしてもシケインコーナーのようなバンクしながらのブレーキングのバトルになると、まだまだNinja250はR25に対して不利な部分があります。2レースとも同じ展開で同じように抜かれています。レース2に関しては対策を盛り込んで勝負に出ましたが、限界を超えてしまい抜かれてしまいました。今回のレースでマシンはかなり進歩してスピードがつかえました。確実に速さではアジアロードレースチャンピオンシップではナンバー1のマシンです。しかし、まだ勝負強いマシンとは言えません。改善すべき点は明確に見えているので改善をして優勝できるように準備していきます。

スポンサー様・関係者様・ファンの皆様、多くの応援ありがとうございました。

山本 剛大

【ライダー 田中歩 選手 コメント】

予選 2位

今回の第3戦は地元鈴鹿で開催されました。事前にテストも行っているのですが、必ずや結果を出さないといけないという気持ちで挑みました。

予選は開始から遅れてコースインをしタイムアタックに入りました。前日の公式練習よりタイムアップが出来たものの2番手タイムを記録した時点で赤旗が掲示されピットイン。

目標タイムに届いていなかったのですが、再度コースインしタイムアタックに入りました。セクター2で前車に引っかかり、タイムを落としてしまいましたが、1周のトータルタイムでは自己ベストを記録し2番手グリッドとなりました。

Race1 5位

スタートが決まり1コーナーで2番手、3コーナーでトップに立ちました。その後はチームメイト3台とアピワット選手との闘いになりました。

中盤は何度かトップに立てるものの引き離すまでの速さが無く最終ラップへ。

理想のポジションを保つことが出来ず、裏ストレート4番手。130Rコーナー立ち上がりで3番手に上がりましたが、最後のシケインコーナーで接触してしまい転倒。幸いにもバイクはエンジンが掛かっている状態で再スタートを切ることができ、5位でチェッカーを受けました。

Race2 3位

日曜 朝のウォームアップ走行は前夜からの雨でウェット路面となりましたが、レースはドライでのレース。

スタートはシグナルが消えるまで1速に入らず、失敗してしまい出遅れてしまいました。3番手に上がって3・4周までは余裕があったもののペースが30秒台に上がってからは、ついていくのがやっととなってしまいました。ラスト2周では1秒近くトップ2台と離れてしまいましたが、ラストラップに追いつく事が出来たので勝負をかけるつもりでした。しかしスプーンコーナー2つ目でリアタイヤを滑らせてしまい、少し差が開いてしまい仕掛ける事が出来ず3位でゴールとなりました。

今回は地元鈴鹿で優勝を目標としていましたが、レースウィーク通しての進め方やレースでの最終ラップの位置取りなど優勝するために自分に足りないものは沢山あると感じました。3戦を終えて少しずつではありますが、前に進んではこれていると思うので、次戦は今回のレースで得た事を活かし優勝できるように頑張ります。最後に、チーム・スポンサーの皆様・ファンの皆様、応援して頂いた方々、ありがとうございました。

田中 歩



【ライダー 安田毅史 選手 コメント】

今回、TRICK STAR Racingの鶴田さんからアジアロードレースチャンピオンシップAP250クラスにワイルドカードで参戦しないかとオファーを頂き、参戦する事になりました。

レースまで時間があまりなかったので、1度だけ鈴鹿サーキットスポーツ走行でNinja250を確認走行し、レースに臨みました。まずは、今回 声をかけて頂いた鶴田監督、チーム、関係者様、スポンサー様、ファンの皆様に感謝します。有難うございます。

予選 5位

Race1 3位

スタートが上手く決まり2・3番手に着けたと思います。山本選手と田中選手のハイペースに上手く着いていくことが出来、4台の争いになりました。最終ラップに自分のペースが上げられず、最終シケインコーナーでは3位走行の田中選手をかわすのが精一杯で、3位でチェッカーを受けました。

Race2 23位

スタートは悪くなかったのですが、山本選手、田中選手、アピワット選手の間にプラトナ選手を挟んでしまいトップ集団について行こうと思いプッシュした所、プラトナ選手と接触しセカンドグループに吸収されてしまいました。序盤でのプッシュが仇となり終盤はタイヤグリップがきつくなり最終ラップの130Rコーナーで2台にパスをされインに入ってしまった為、アウトに振ったところ、さらにもう2台に入ってこられシケインコーナーで接触転倒してしまいました。傷ついたマシンを起し再スタートしゴールラインをぐり、結果23位でゴールしました。

重ね重ねになりますが、今回このようなレースに出させて頂き、鶴田さんを始めメカニックのみなさん、スポンサーの皆様、有難うございました。バイクも綺麗なまま返したかったのですがすみませんでした。今回のレースで感じた事は、アジア各国の選手たちのレベルの高さとハングリー精神の強さに驚き、自分の甘さや日本人の甘さを感じました。自分も負けずにハングリー精神や戦略法も鍛えていきます。有難うございました。

安田 毅史



【監督 鶴田竜二 コメント】

前回のタイラウンドで山本選手が今期初優勝を果たし、この勢いで地元鈴鹿で巻き返しをはかりました。チームとしてはタイから更に吸排気の開発を進めマシンのトップスピードはデータから見ても確実に速くすることが出来ました。

実走行でも山本選手、田中選手がレコードタイムを連発し、予選まで全て1位2位タイムを独占していたことで実証していたと確信しております。

また今回はタイトル争いに向け挽回する為に、数々の全日本レースシーンでの実績を持つ安田毅史選手に出場してもらいました。

レース1では彼を含むチームの3人が終始トップ争いをしてきて大いにチームの総合力がアピール出来たと思います。

しかし、レース結果はスリップストリームを利用し何とか付いて来た選手に最終周のシケイン進入でギリギリのパフォーマンスにより交され優勝は出来ませんでした。

今回のレースに挑むにあたり、選手もメカニックも限りある時間の中でしたが非常に良い準備をしてくれました。

それでも勝利を逃してしまった事は非常に残念で悔しい思いをしております。

レース展開を振り返り反省をしましたが、敗因はやはりまだまだ勝つ為の準備が足らなかったと言う事になります。

ライダーは本当に素晴らしい走りをしてくれました。山本選手は負けはしましたが終始レースの主導権を握りリードしてくれ2分29秒3と言う素晴らしいコースレコードタイムも樹立してくれてチームを2位に導いてくれました。田中選手はトップグループに肉薄する走りを見せながら今期初表彰台3位を獲得してくれました。

安田選手もスポット参戦にも関わらず3位入賞してくれました。

彼らに次回から確実に勝てるマシンを用意出来る様にチームとして取り組み続けます。

ホームである鈴鹿で勝てなかった事は非常に残念で悔しいのですが、今回のレースでまた学んだことは大きいと思います。

次回は我々TRICK STARの海外拠点があるインドネシア大会ですので、是非とも勝利を奪い返したいと思います。

最後になりましたが、我々チームを支えて頂いている各スポンサー様、いつも熱い応援を頂いているファンの皆様、各関係者様、今回もありがとうございました。

TRICKSTARレーシングの闘志は更に燃えています。

引き続き応援よろしくお願い致します。

鶴田 竜二

